



## サンシャイン水族館「サンゴプロジェクト」の取り組み ～サンゴ返還プロジェクト&サンゴ礁再生プロジェクト～

[http://www.sunshinecity.co.jp/campaign/cp/coral\\_project/](http://www.sunshinecity.co.jp/campaign/cp/coral_project/)

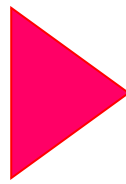
**サンシャイン水族館（東京・池袋、館長：丸山克志）では、2006年4月より沖縄県恩納村の協力のもと「サンゴプロジェクト」を行っています。**

2006年より、沖縄県恩納村のサンゴをお預かりし、水族館で展示・育成を行い、成長したサンゴを枝打ちして沖縄の海に戻す「**サンゴ返還プロジェクト**」を行ってきました。さらに2014年12月からは、沖縄科学技術大学院大学（OIST）の協力により、遺伝子型を確認した沖縄のサンゴの受精卵によりサンゴを殖やす「**サンゴ礁再生プロジェクト**」を開始しました。サンシャイン水族館ではこれらの取り組みを「サンゴプロジェクト」と称し、サンゴの保護と啓発活動を継続しています。

サンシャイン水族館では、サンゴ礁の再生を願い、今後も保全活動を継続してまいります。



サンゴ移植直後 (3.3cm×1.2cm)



約5年後 (48cm×38cm)

### サンゴプロジェクト

たくさんの生物が暮らすサンゴ礁では、天敵となるオニヒトデの大量発生や土地開発等による土砂の流出、表層水温上昇に伴うサンゴの白化などでサンゴの大量斃死(へいし)が起こっています。沖縄県本島中央部、西海岸沿いに位置する恩納村は以前よりサンゴの保全活動を実施しています。サンシャイン水族館では2006年からサンゴ礁の再生に向けて沖縄県恩納村の協力の下、サンゴプロジェクトを推進しています。

時期	主な出来事
2006年	「サンゴ返還プロジェクト」開始 ※沖縄県恩納村協力の下 「サンシャイン サンゴ礁」水槽新設
2008年	「サンゴの枝打ち」お披露目記者発表会実施 サンゴの植え付け準備作業(恩納村の海掃除&オニヒトデ駆除) サンゴ返還式実施 サンゴ返還・植付け 1回目
2010年	サンゴ返還・植付け 2回目
2011年	サンシャイン水族館全館リニューアルにより、「サンシャイン サンゴ礁」水槽が「サンゴ礁の海」水槽、「サンゴ礁の再生～恩納村の海から～」水槽にリニューアル サンゴ返還・植付け 3回目
2012年	サンゴ返還・植付け 4・5回目
2013年	サンゴ返還・植付け 6・7回目
2014年	「サンゴ礁再生プロジェクト」開始 ※沖縄科学技術大学院大学(OIST)の協力の下 サンゴ返還・植付け 8・9回目
2015年	サンゴ返還・植付け 10回目
2016年	「サンゴプロジェクト」ウェブサイト立ち上げ <a href="http://www.sunshinecity.co.jp/campaign/cp/coral_project/">http://www.sunshinecity.co.jp/campaign/cp/coral_project/</a> 一般のお客様向けに「サンゴ教室」を開催 サンゴ返還・植付け 11回目
2017年	「サンゴ教室」開催 サンゴの産卵 卵の育成開始 サンゴ返還・植付け 12回目
2018年	国際サンゴ礁年 オフィシャルサポーター就任 サンゴの産卵 卵引き続き育成中 サンゴ返還・植付け 13・14回目 一般のお客様向けに「サンゴプロジェクトツアー」開催

「サンゴ返還プロジェクト」に関する活動

「サンゴ再生プロジェクト」に関する活動

サンゴ返還プロジェクト

沖縄県恩納村漁業協同組合よりサンゴをお借りして育成し、殖やしたサンゴを沖縄の海へ還す活動を実施しています。恩納村の海に移植したサンゴが数年後に成長し、一斉産卵で浮遊した卵が流れ着いた新天地で定着することで、サンゴ礁再生の一端を担うことを目標としています。また、サンシャイン水族館に母サンゴを輸送し、水槽内飼育をすることで、自然災害等で恩納村の海のサンゴが死滅した場合の、DNAを保管する役割も担っています。



サンシャイン水族館での工程



大きく育ったサンゴを枝打ち



スティックに固定し、水槽内で育成

沖縄の海での工程



①岩盤に穴を開けます。



②穴の中にスティックを挿し込みます。



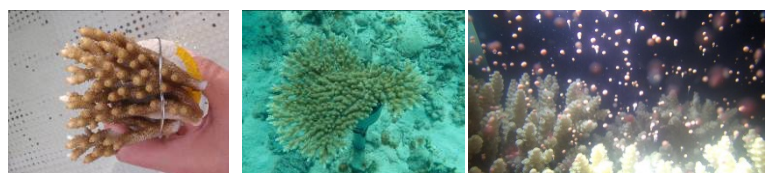
③識別タグをつけたら完成！成長を見守ります。

サンゴ礁再生プロジェクト

2014年12月より、「サンゴ礁再生プロジェクト」を始動しました。この活動は、サンゴの卵と精子が受精する有性生殖の方法を使ってサンゴを殖やし、サンゴ礁の再生を目指します。現在は、サンゴ礁の優占種（もっとも数が多い種類）であるミドリイシサンゴの仲間を3種類選定し、親サンゴとして沖縄で育てています。毎年6月頃の産卵を目指しており、2017年6月に初めて産卵を確認しました。

★サンゴ礁再生プロジェクトの方法

- ①親となるサンゴの育成。
- ②親サンゴが産卵し恩納村海域へのサンゴの幼生の供給を増やす。また、卵の一部を回収し、サンシャイン水族館にてサンゴの赤ちゃんを飼育。
- ③成長した子サンゴを恩納村の海へ移植。



左：親サンゴ 2014年12月、中央：親サンゴ 2015年9月、右：親サンゴの産卵 2017年6月

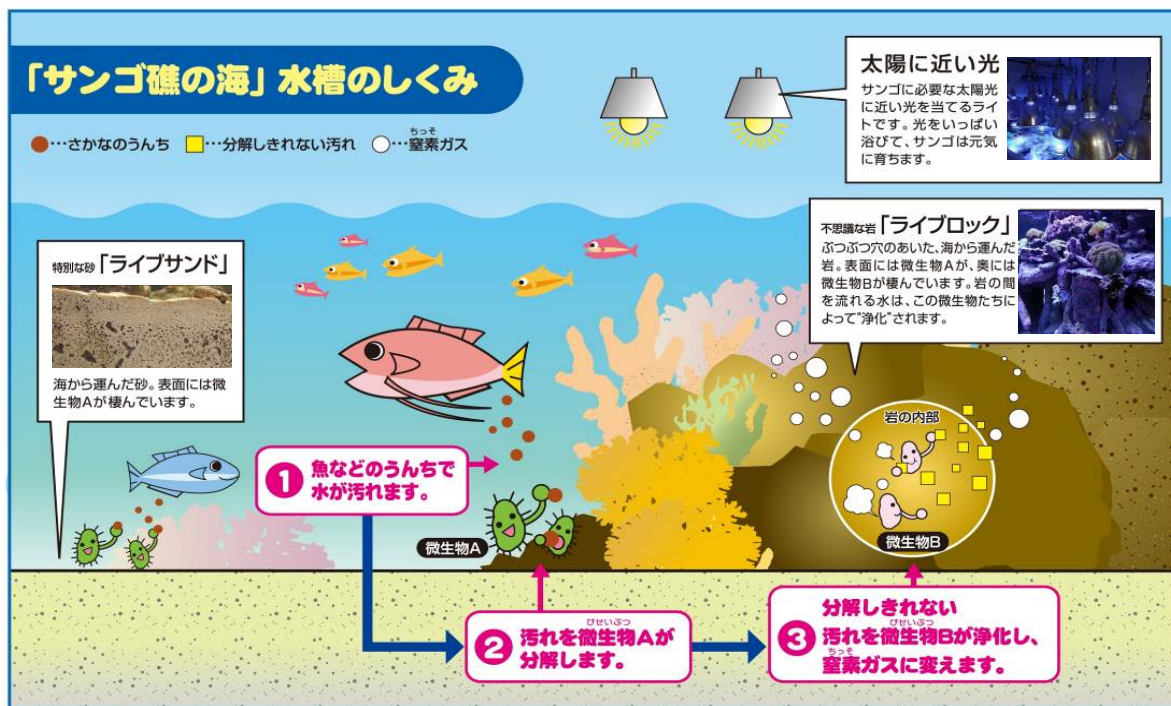


水族館でサンゴを飼育するために

水族館でサンゴを飼育するためには、魚を飼育する以上に水槽の環境に配慮する必要があります。サンゴを飼育する水槽には、水質・光・水流などをサンゴに適した条件にするために様々な機材や工夫が必要です。サンシャイン水族館では下記の図のしくみによる水槽でサンゴを飼育しています。



「サンゴ礁の再生～恩納村の海から～」水槽



サンゴとは？

サンゴは、刺胞（しほう）動物と呼ばれるグループの仲間です。刺胞動物のグループには、イソギンチャクやクラゲも属していて、刺胞と呼ばれる毒の器官を持っているのが特徴です。サンゴもこの刺胞を使って、エサとなるプランクトンを捕まえています。また、サンゴは太陽の光が届く浅いあたたかな海に生息しています。これはサンゴの生活のほとんどが光合成によって作り出されるエネルギーに由来しているためです。サンゴの体内には「褐虫藻（かつちゅうそう）」という植物プランクトンが共生しており、この褐虫藻が光合成によって作り出すエネルギーをサンゴが利用しています。

